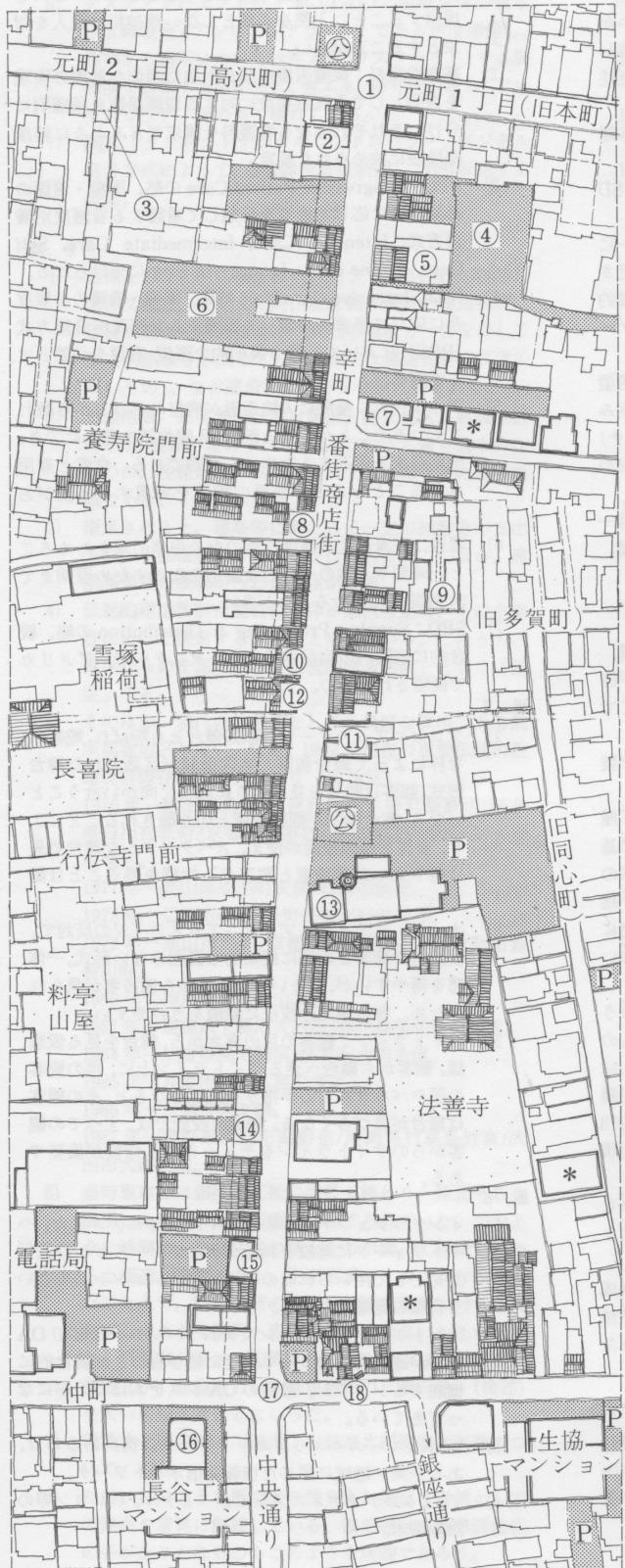


Kawagoe Walking Map



①札の辻。江戸時代川越市街地の中心であった。南西の小広場は角の肉屋さんがセットバックして提供したもの。

②増築を機会に屋根をつけた。しかしノッポの建物を町並みに合わせるのは難しい。



③都市計画道路の拡幅予定線。もし実行されたら町並みは壊滅する。仮に実施されなくとも都市計画はさまざまな町づくり制度の基本である問題である。しかしいったん決められた都市計画を変更することは至難だ。

④ブロック内の空地。一時は繭市場がたっていたこともある。前面の蔵造りと一体にした施設の検討が進行中。

⑤重要文化財大沢家住宅。1792年の建築で、1893年の大火をくりぬいた。蔵造りによる町並み再建のお手本になった。



⑥核施設の建設用地。もともと山車会館用地として確保されたが、どのような内容の施設が本当に町の活性化に役立つか、検討が進められている。



⑦昭和40年代の典型的な「近代建築」。このような建物の北側の多くは空地になっている。



⑧蔵造り資料館。もと煙草問屋で初期の保存運動で破壊を免れた。大火直後いち早く建てられた蔵造りで意匠はさっぱりとしている。



⑨有名な「時の鐘」。

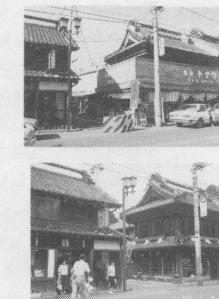
⑩マチカン(町勘)金物店。代表的な蔵造りでファサードのバランスも見事。商売も老舗にふさわしいやり方を貫いている。



⑪鉄骨 ALC の建物だが庇に瓦3枚をとりつけた。「蔵の会」発足の頃、住民のこんな努力が相次いだ。



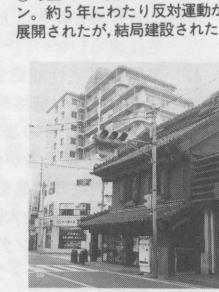
⑫1989年4月修復なった陶器屋さん。看板の裏の庇は取り払われており、工事は大変であった。



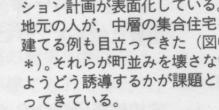
⑬洋風建築の埼玉銀行(1922年)。川越は埼玉銀行の発祥の地である。1988年駐車場の一部をボケットパークに提供した。

⑭もとは立派な町家が建っていた。その取壊しをなんどもできなかつたことが、「蔵の会」がナショナルトラスト運動を看板に掲げるきっかけとなった。

⑮1955年駅前へ転出したデパートの建物。商業活動衰退のいわば象徴的存在である。日本橋のデパートをならつたといわれるファサードをもち、一時はキヤバレーに使われていた。



⑯町並みと屹立するマンショն。約5年にわたり反対運動が展開されたが、結局建設された。



⑰ここはもと T字路。もともと南北道路は矢印のようにたどった。南へ抜ける道は1919年の建設。

⑱この一帯で最近、さらにマンション計画が表面化している。

地元の人々、中層の集合住宅を建てる例も目立ってきた(図中*)。それらが町並みを壊さないようどう誘導するかが課題となってきた。